



さざなみ

血液内科のご紹介

血液内科部長 田野崎 栄

平成19年10月に日本医科大学血液内科から当院に血液内科を再び立ち上げることを命題に赴任し、はや、9年が経ちました。平成20年4月から大学病院の中堅派遣医師とともに2人体制、平成23年1月から水木太郎医師が常勤医に加わり3人体制となっており、外来診療も非常勤医師3人が加わり、血液専門外来が月曜日から土曜日まで毎日受診できるようにになっております。また無菌室も3床完備し、白血球数の少ない状態でも診療可能で、平成25年から、より多くの選択肢から最善の治療を選べるように自家末梢血幹細胞移植を開始し軌道に乗せることができました。

さて、血液内科というとなかなか

馴染みが薄いと思われませんが、実際、大病院以外に血液内科を標榜し入院治療可能な病院はとも少ないのが現状です。とくに東京の東部地域では数えるほどしかありません。血液内科で対象となる病気とは、赤血球、白血球、血小板といった血液の血球成分が減ってしまうもの(各種貧血、無顆粒球症、血小板減少症など)、逆に増えてしまうもの(多血症、本態性血小板血症、骨髄増殖性疾患)、さらに血液を造る骨髄が機能不全を起し、うまく血球を作れなくなってしまいう再生不良性貧血や骨髄異形成症候群、骨髄線維症などがあります。また、悪性の細胞が増殖してしまう造血器悪性疾患として、急性や慢性白血病、悪性リ

ンパ腫、多発性骨髄腫などがあります。さらには、血液のノリの成分である凝固因子などに異常をきたす病気(血友病、播種性血管内凝固など)も対象となります。

このように血液の病気は多岐にわたるのですが、なかなか直接的な症状が出にくい場合も多く、健康診断でたまたま異常が見つかる場合や、別の病気で通院しているうちに判明する場合もあります。実際、他の病院や様々な科の先生から血液疾患を疑われ紹介受診される方がほとんどです。さらに症状が明らかになつたときには、病気が進行、悪化している場合もあります。そのため、日ごろ健康診断を積極的に受診することや、かかりつけの先生にちょっとした症状でもご相談されることをお勧めいたします。

ん、などなど。そうした症状の陰に血液疾患が潜んでいる場合は決して珍しくありません。また、貧血で一番頻度の多い鉄欠乏性貧血では、赤血球の材料である鉄分の欠乏により生じますが、その原因を調べることが最も大切です。胃や腸に出血性の病変(がんやポリープ、潰瘍など)がある場合や、女性では月経が原因だけでなく婦人科疾患の可能性もあります。高齢化とともに、とくに骨髄異形成症候群や悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの血液疾患も増加傾向にあります。そして治療は長くかかり、盲腸(虫垂炎)のように手術してしままいというわけにはいきません。血液疾患は、長く付き合わなければならぬものが多いのも事実です。その先に治療が得られる場合もありますが、なかなか困難な場合もあります。しかしながら、血液疾患分野での新薬開発や治療の進歩には目覚ましいものがあります。分子標的薬などの様々な新しい薬の登場とともに、難治性や治療抵抗性であった血液疾患の中には、治療の可能性が広がったり、病勢を抑えることができ、より良い生活の質を保てるようになってきました。

当科では、1人1人の患者さんに最新、最適の治療を提供し地域の血液疾患医療の支えとなるべく、スタッフ全員でこれからも頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。



血液内科スタッフ一同



末梢血幹細胞採取装置



クリーンルーム内

病院の中には医師や看護師の他に、レントゲン・CT・MRIなどを扱う診療放射線技師、血液や細菌検査・心電図や脳波などの検査を行う臨床検査技師、リハビリテーションを行う理学・作業療法士など様々な職種が働いています。

「臨床工学技士」も病院で働く医療技術者です。医師以外の診療補助に従事する看護師や各種の医療技術者はメディカルスタッフと呼ばれます。臨床工学技士はメディカルスタッフの1職種であり、医療と工学を持ち合わせた医療機器のスペシャリストです。

同愛記念病院で働く私たちの仕事は、大きく分けて医療機器の管理・人工透析・心臓手術のお手伝いの3つです。

病院内にはたくさんの種類の機械があります。普段みなさんが見慣れている血圧計、指に挟んで体内の酸素を測るパルスオキシメーター、心臓から発する電気を見る心電図、心臓やおなかの中を超音波で見るエコーや、自分で呼吸がうまくできなくなってしまった患者さんを助けてくれる人工呼吸器、手術で使う機械、人工透析などの特殊な機械が壊れて使えなくならないように、メンテナンスや修理を行うことが医療機器の管理です。また、病院内の医療機器のマネジメントも行い、安全で効率的に機械を使用できるように努めています。



ペースメーカー外来



透析室（平成28年8月オープン）

2つ目の人工透析は血液を体の外に出し、特殊な膜を通すことで血液の中の汚れを取り除きキレイにすることや、おしっこ代わりに血液の中からよけいな水分を取り去ること、ホルモンの注射をすることで正常な腎臓の働きを代替する治療のことです。臨床工学技士の仕事は、主に人工透析の機械操作や注射、透析中の患者さんのケアなどを行っています。

3つ目の心臓の手術では心臓血管の詰まりや、血管が狭くなること（心筋梗塞や狭心症）で胸が痛くなった時に、カテーテルという管状の細い棒を心臓の血管まで通し、バルーンといわれる風船やステントといわれる金属でできた金網状の筒で、狭くなった血管を広げる治療のことです。この時、臨床工学技士は主に心臓の動きを助ける機械の操作や、患者さんの血圧や心電図を監視したり、医師の手術の手伝いを行っています。また心臓ペースメーカーを植え込みされた患者さんの定期的な検査なども行っております。

私たち臨床工学技士は、24時間体制で患者さんに医療機器を通じて、安全で有効な医療技術を提供することでチーム医療に貢献しております。どうぞよろしくお願いいたします。

同愛記念病院の理念

同愛記念病院は地域の要請をふまえ地区の基幹病院として親切で適切な医療を提供し社会に貢献します。

〈診療科目のご案内〉

循環器内科、血液内科、糖尿病・代謝内科、腎臓内科、消化器内科、神経内科、一般内科、神経科・精神科、アレルギー・呼吸器科、小児科、外科、整形外科、形成外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科

〈病床数〉403床

■交通案内

JR総武線 両国駅(西口)から徒歩7分
都営地下鉄浅草線 蔵前駅から徒歩10分
都営地下鉄大江戸線 両国駅から徒歩5分
●都営バス (錦糸町～大塚駅) 石原1丁目停留所から徒歩3分

当院では外来予約制です。

初診/ (月～金) 午前8時30分～正午(紹介状のある方は午後3時)
(土) 午前8時30分～午前11時
再診/ ご予約のない方: 自動再来受付機にて午前8時30分～正午
次回のご予約は診察後にお申し込みください。
休診日/ 日曜日、祝日、年末年始(12月29日～1月3日)



社会福祉法人 同愛記念病院財団

同愛記念病院

〒130-8587 東京都墨田区横網2丁目1番11号
TEL. 03-3625-6381 (代) FAX. 03-5608-3211